

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「その人らしく」生活してもらうことを大切にしている
	内容	食事、入浴、就寝起床以外は、時間的な制約を設けておらず、自由に過ごしてもらえるようにしている。入所前に愛用していた備品類などの持ち込もできる限り対応しており、自宅での生活の延長になるように配慮している。年間を通じて数多くの催し物を開催しているが、本人の意向を尊重して参加を無理強いしないことを原則としている。利用者調査の「生活はくつろげるか」の設問に関しては、「はい」が71.4%あり高い満足度であった。自由意見では、「リハビリ、週1回の習字が楽しみ」、「洗濯干し、たたみをしています」などの声が聞かれた。
2	タイトル	事業所一丸となって事業を推進する体制作りに取り組んでいる
	内容	各担当部署の責任者が出席するサービス検討会や職員会議をはじめ、各種の定例のミーティングを開催しており、サービスの基本事項や手順が全職員に行き渡るようにしている。また、感染症対策・褥瘡予防対策・医療的ケアなどのリスクマネジメントに関する委員会を設け、各職種が横断的に業務改善に取り組めるようにしている。事業報告書では進捗状況を詳しく総括して振り返り、次年度計画に反映できるようにしている。個々の事業推進にあたっては、常に「利用者本位のサービス提供」が意識できるようにしている。
3	タイトル	施設の機能を地域に還元することに力を入れている
	内容	事業所の機能や専門性を地域に還元する取り組みとしては、地域の自治会などに備品類などを貸し出すことに加え、市内社会福祉法人連絡会の活動の一環として、本年度より食事なども提供する「暮らしの相談ステーション」を開催している。平日の10:00～15:00までの時間帯に地域の方々を対象に、様々な相談を受けることにしている。合わせて地域の団体が主催する「料理教室」に管理栄養士を派遣し、高齢者向けの食事などを紹介して啓発活動に取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	ヒヤリハットの概念を明確にし、分析を詳しく行なうことが必要とされる
	内容	転倒・転落・滑落などの事故が発生した際には、関係者による話し合いの機会を速やかに設け、事故報告書を作成する流れとしている。報告書には、原因・対応・対策などは詳しく記載できる書式を設けており、後に開催されるリスクマネジメント委員会においても適切に検証できるようにしている。また、年度単位で「事故およびヒヤリハット報告」を設けているが、「ヒヤリハット」と「事故」を区分し、それぞれの増減や比較などに取り組み職員の意識の高揚を図ることが望まれる。
2	タイトル	ケアプランのモニタリング手法を標準化することを検討されたい
	内容	利用者の心身状況や生活状況などは共通の記録システムを使用し、状態の把握に努めている。ケアプランに沿った支援が提供できるように、ケアプランの2表と介護記録を一緒に綴じ込むファイリングシステムを用いている。また、状態観察やニーズを聞き取り、定期的にケアプランのモニタリングを実施している。ただし、モニタリングの記載内容については職員間の差異も見受けられた。ケアプランの達成状況や利用者の満足度を的確に把握するような手法や書式の改善が望まれる。
3	タイトル	内部研修を更に充実させることを目指されたい
	内容	常勤職員に関しては人事考課制度に沿って定期的な面談を実施し、個人別の育成計画を策定する仕組みを整えている。職制や職域に沿って施設内外の研修に参加できるようになっている。昨年度は41テーマの外部研修に70名を派遣しており、勤務シフトなどを調整してより多くの職員が参加できるようにしている。内部研修については、KYT訓練や誤薬防止をテーマとして実施したり、各委員会において専門分野ごとに学んでいる。さらに、スキルアップにつながる研修を、年間を通してスケジュール化して取り組むことも検討されたい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員のサービスと支援の標準化に取り組んでいる
	内容	今回新しい取り組みとして、個別に「自己評価表」と「自己申告書」を作成した。基本姿勢から通所介護計画・人権プライバシー保護・認知症への理解や様々なサービス支援の理解度を個別に自己評価できるものになっており、自らを知ることができ、先輩職員からも職員一人ひとりにあった指導・助言が受けられるように改善されている。今年度スタートした独自の評価表を基に、より質の高いサービス提供が為されることが期待される。
2	タイトル	心と体の活性化に役立つプログラムを毎回のレクリエーションに組み込んでいる
	内容	デイサービス職員はシナプソロジーの資格取得者を配置しており、心と体の活性化に役立つプログラムとして毎回のレクリエーションに組み込んでいる。シナプソロジーのレベルも様々であることを踏まえ、利用者に合ったレベル段階のトレーニングメニューを用意している。集団で行うことで一人ではできないことも仲間と良い意味の緊張感と協力のできるようなメニューを作成している。毎回の反復した訓練で脳の活性化に役立っていくことが狙いでもある。利用者が積極的に参加をしていることが、シナプソロジーの評価につながっている。
3	タイトル	細かな情報も職員同士がすぐに情報を共有できるような仕組みができている
	内容	利用者の到着時には職員が利用者や普段の何気ない会話の中からも情報をキャッチし、気づきや特記事項があれば職員は付箋を用い、気になる事項を専用のボードに貼って共有している。フロアの周りにはソファや椅子などが置いてあり、自分の好きな場所でのんびりと過ごせるようになっている。雑誌や職員手作りの脳トレパズルなども多数置いてあり、職員が勧めなくとも利用者自らが手に取りパズルをやっているのが場面観察でも確認できている。また、静養できるベットも3台設置されており、1日の休息の場も確保されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域の居宅介護支援事業所とのネットワークの拡充を目指している
	内容	介護支援専門員との連携を図りながら、利用者の在宅生活を支援することに心がけている。サービスの実施状況に加え、心身の変化・趣味活動・社会参加などの多角的な情報を把握しており、サービス担当者会議などを通じて、ケアマネジャーと直接情報交換を行うことに努めている。地域の居宅介護支援事業所や関係機関との円滑な連携が図られていることが確認できている。さらに、地域の居宅介護支援事業所とのネットワークを拡充することを目指している。
2	タイトル	メニューを豊富にそろえ利用者の意見に反映することに期待したい
	内容	食事前には、朝のレクリエーションプログラムとしての嚥下体操が含まれており、利用者も積極的に参加していることがうかがえた。調理の職員が毎回食事をデイサービスに運ぶ際にラウンドを行い利用者の声を聞いている様子も確認できている。さらに、趣向調査などを行い深く掘り下げることも期待したい。「食」のバラエティーさと美味しさの工夫に努めている事業所も多いことを踏まえ、「食事」からもデイサービスの特長を地域に訴求することができるような取り組みも望まれる。
3	タイトル	安全性の高い事業所運営を目指している
	内容	事業所では毎月給付管理を行う際や、それ以外にも定期的に「空情報」を地域の居宅介護支援事業所に提供して、利用促進を促している。併設する他の在宅サービス、ボランティアなどを通じても利用情報を提供している。本年度上期は概ね前年同様の利用者を獲得できているが、曜日における差異もあるため、さらに利用率の向上を目指している。目標とする利用率を達成するために、地域のニーズを把握し、積極的な情報提供を課題としている。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	豊富なプログラムを取り入れ活動予定表で利用者に伝えている
	内容	利用者全員や小集団での体操をはじめ、「運動系」や「脳トレ系」の各種のレクリエーションの充実、外出活動などを通じて、全曜日同様に参加できるプログラムを実施している。また、年間を通じて四季にちなんだ行事も開催している。月次のプログラムに関しては前月に確定し、「活動予定表」に掲載することで事前に伝えている。事業所は、自立度の高い利用者が数多く在籍していることから、意向や要望を踏まえアクティビティ中心のプログラムに取り組んでいる。また、定期的にボランティア活動を取り入れ、幅のあるプログラム作りにも取り組んでいる。
2	タイトル	食事について利用者からは高い満足度が得られている
	内容	定期的に開催している利用者懇談会では食事に関する意向や要望を聞き取り、給食会議で検討し献立に反映させるようにしている。利用者調査から食事の献立や介助は満足しているかの設問に関して高い満足度が得られている。年間を通じて歳時記にちなんだ行事を行う際には行事食を提供したり、ラーメン、カレーライス、デザートを選択などを実施して、利用者の希望に合った食事提供となっている。今回行った利用者調査の「食事の献立や介助は満足しているか」の設問に関しては、高い満足度が得られている。
3	タイトル	利用者がゆったり過ごせる環境整備に取り組んでいる
	内容	フロア内は落ち着いて過ごせるような環境を整えたり、フロアの端にはソファやベットの設置したりして、自由に休めるようにしている。また、大きなガラス窓からは保育園の園庭が臨め、園児が元気に遊んでいる様子が見えるようにしている。また、定期的にトイレチェックを実施しており、汚れは随時清掃して清潔確保にも取り組んでいる。フロア内は大きな障害物は置かない等安全に留意している。遠慮がちだったり、話をあまりしない利用者に対しては、職員の声かけによって無理なく各種のプログラムに参加してもらえるように配慮している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者の意向や状態に合わせた待ち時間の対応を検討されたい
	内容	利用者が全員到着するまでや、帰宅時の送迎の待ち時間を手持ち無沙汰にならないように心がけている。「朝の会」が始まるまでの時間帯には、入浴・個別機能訓練・頭の体操などを実施しており、職員との会話も弾んでいるように見受けられた。送迎バスの待ち時間には、カラオケ・ゲーム・折り紙などが用意されており、利用者の希望によって参加できるように取り組んでいる。事業所では到着後や帰宅前の時間をさらに有効に活用することを目指している。
2	タイトル	権利擁護などの施設内研修を実施し、職員への注意喚起を促している
	内容	高齢者の権利擁護と虐待についての事業所内研修を開催して、職員への注意喚起を促している。高齢者虐待マニュアルを整備しており、虐待の事例などが発見された際には地域包括支援センターや市の担当課と連携体制できるようにしている。日々の夕礼ではふり返りを行い、必要に応じカンファレンスにおいて対応を検討している。利用者からの声は意見箱、苦情窓口の設置により直接届く仕組みとなっている。さらに、過去の事例から、職員の態度や言葉遣いについては特に注意することを心がけている。
3	タイトル	事業所の特長を明確にし、さらにサービス内容をステップアップさせることが期待される
	内容	事業所は総合福祉施設の中に位置し、地域包括支援センターをはじめ各種の高齢者福祉サービスや保育園などとも連携を図りながら幅広いサービスを提供している。職員のスキルやモチベーションも高く、利用者本位のサービス提供がなされていることもうかがえる。ただしその反面、特長が捉えにくい側面があることも否めない。タイトな人員体制の中で一定以上のサービス提供がなされていることは高く評価できるが、さらに職員間での話し合いを充実させ、事業所の特長を職員一人ひとりが認識できるようなマネジメントを構築されたい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者の状況について、あらゆる場において職員間で共有している
	内容	サービスの変更がある時や更新時、退院時にはサービス担当者会議をおこない、サービスの内容について検討している。会議には利用者・家族、利用しているサービス提供事業者の職員、ケアマネジャーが参加しているが、参加が難しい場合には照会書で返答をもらっている。サービス担当者会議の欠席者には会議の要点(会議録)を配付し、情報を過不足なく伝えている。また、朝礼、終礼、月1回の居宅支援会議では状態変化のあったケースについて報告し、職員間で情報共有している。
2	タイトル	事業所の意向把握の対応は高い満足度が得られている
	内容	意見、要望、苦情などがあった場合は、決められた苦情解決の手順に従って迅速に対応している。原則として口頭によって申し送ったり、対応結果を居宅会議で報告し共有している。今回行った利用者調査の、「不満や要望を職員に言いやすく、不満や要望にきちんと対応してくれるか」の設問については、高い満足度が得られていた。自由意見欄には、「事業所に相談する」、「信頼している」などの声が聞かれていた。
3	タイトル	地域の身近な相談窓口として「暮らしの相談ステーション」が開設されている
	内容	平成29年10月より、東村山市内の全ての社会福祉法人が連絡会をつくり、地域の公益活動として「暮らしの相談ステーション」を開設している。市内の28か所の事業所が共同しておこなう相談事業で、福祉に関係のない相談でも、まずは話を聞き、相談の内容によって適切な機関を紹介したり、必要なサービスの情報を伝えている。「相談窓口一覧」や相談の流れが書かれたチラシが用意され、週1回の相談日には「のぼり旗」を立て、目印になるように工夫されている。地域住民にとって、地域の身近な事業所へ相談できるメリットがある。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	記録の媒体を電子化し、効率的に業務が遂行されることが望まれる
	内容	ケアプランやサービス担当者会議の要点、リ・アセスメント支援シートはパソコン上での記録であるが、まだまだ記録媒体が紙ベース中心である。現在のソフトは使いにくいとのことなので見直しをし、記録の電子化を図ることによって、業務の効率を上げ、仕事の仕方や情報共有の仕方がより良い方向にいくことが望まれる。
2	タイトル	医療面での知識を充実させることを目指している
	内容	心身状況が変化した際には、医療機関への受診に同行したり、医師を交えたカンファレンスへも出席している。必要に応じて病院や福祉施設などの情報を提供したり、同意を得て施設との調整などにも取り組んでいる。支援に関わる経過については、個別支援経過記録へ詳細な記録を残すことで、支援の継続性を心がけている。入所が決定した際には、利用者や家族の同意を得て施設への情報提供を行っている。事業所ではさらに医療機関との連携を深め、支援を充実されることを目的に、医療面での知識を充実させることを目指している。
3	タイトル	
	内容	

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	利用者の安全確保のために、災害対策をはじめとするリスクマネジメントの充実を図っている
	内容	利用者が安全な環境の中で生活を営むことができるように、施設ではリスクマネジメント委員会や衛生委員会を定例開催し、事故予防や感染症予防対策について組織的に取り組んでいる。また、敷地・建物の老朽化に伴う危険個所の改修工事を計画的に行っている他、防犯カメラの設置による不審者対策等を進めている。さらに、災害対策として、懸案事項であった災害時の事業継続計画(BCP)を4月に完成させるとともに、BCPに基づき各職員が実際に行動できるか確認する訓練を予定する等、リスクマネジメントのさらなる充実を図っている。
2	タイトル	個別支援計画の作成や見直しのしきみを整備し、モニタリング等で内容の検討を重ねながら、個々の目標に沿った支援の提供に努めている
	内容	多様なアセスメント項目による利用者の状況把握や、丁寧な聞き取りに基づく意向確認により個別支援計画を作成して、利用者の支援目標や方針を定めている。日々の支援記録は計画で設定された各支援項目に沿って記載され、各職員が支援の経過や進捗状況を把握しながら、利用者の状況に合わせた有効な支援となるよう取り組んでいる。また、会議での多職種間による多角的な観点からの検討や、モニタリングによる計画の見直しを図りながら、変化する利用者の状態および要望を反映した計画作成を心がけ、利用者が自立へと進んでいくための支援に努めている。
3	タイトル	利用者一人ひとりにとっての自立の形を模索しながら、個別のニーズや要望を踏まえた自立生活の実現に向けた支援に取り組んでいる
	内容	循環型施設として利用者の自立支援に取り組む中で、地域生活への移行や他種別施設への移管等、次の生活拠点への移行支援を進めている。同時に、利用者の高齢化等、利用者の状況も多様化しており、移行への動きが難しい利用者に対しては、施設での生活を維持していくことや、日常生活での自立性を高めていくことが自立につながるとの観点から目標を捉え、支援にあたっている。個々の意向を尊重し、利用者の抱える課題や可能性を検討して最善の方向性を探りながら、一人ひとりに適した自立生活の実現に向けた支援に努めている。
No. さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	理念や基本方針、支援姿勢についての共通理解をさらに進め、職員全体の一体感を高められたい
	内容	法人の理念や施設の基本方針の浸透を図るために、施設長との個人面談の際に直接確認する取り組みが行われている他、職員会議の場等で理念や基本方針に基づく支援姿勢について振り返る機会を持つことにより、あるべき支援姿勢の共通理解を深めることに取り組んでいる。ただし、実際には各職員への浸透が十分進んでいない状況がみられ、施設でも課題認識を抱いている。今後は理念や基本方針について各職員の理解が深まる取り組みをさらに工夫するとともに、共通理解をさらに進めることで職員全体の一体感を高められたい。
2	タイトル	事業計画の進捗管理を定期的に行い、達成状況等について共有していくことが望まれる
	内容	施設では単年度の事業計画書を策定するにあたり、利用者代表も含めた事業計画会議を開催することにより、職員と利用者、それぞれの考えを事業計画書に反映するしきみが定着している。事業計画に基づいた運営・利用者支援を目指して、職員会議や運営会議のなかで新たな企画の提案や計画の微調整等が行われている一方、年度内に時期を決めて総括を行って見直し・検証する取り組みまでは導入されていない。今後は事業計画の進捗状況について職員全体で振り返るとともに、達成状況等を共有していくことが望まれる。
3	タイトル	自立生活に向けた意欲を引き出し、生活の幅を広げる機会として、地域とのつながりやかかわりを通じた社会的経験の拡充が期待される
	内容	地域の情報を伝える手段として、広報誌や市報等を掲示し、個々の興味や関心に合わせて情報を得られるよう周知に努めている。しかしながら、利用者が自発的に関心を持つまでには至っていない状況もあり、施設は、情報提供の方法や、個々のニーズに合わせた情報収集等の必要性を認識している。地域とのつながりを感じられる機会や、社会的な生活体験の機会は、利用者の生活の幅を広げ、自立に向けた意欲を引き出すきっかけともなるため、個々のニーズに合わせた地域資源の把握や活用を踏まえ、広く社会参加の機会提供等のさらなる取り組みに期待したい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	理学療法士や訪問歯科と連携しながら健康維持のために取り組むとともに、効果や目的を見据えた支援への意識喚起を図っている
	内容	理学療法士によるリハビリでは、利用者の健康維持という目的に加え、外へ散歩に行けるように、体力をつけられるように、というその先を見据えた目標を意識した支援にあたっている。また、訪問歯科の導入により虫歯治療等の口内環境の改善や、口腔ケアに対する利用者の認識が深まる効果とともに、可能な限り自分の歯で食べられる状況を維持するための誤嚥対策の検討にもつながっている。専門職との連携により健康管理についての支援体制を整え、直接的な効果だけでなく、利用者にもたらず自立への可能性を踏まえた支援に取り組んでいる。
2	タイトル	日頃の気づきから業務を改善する「あれおやメモ」の導入等により、各職員の業務に対するモチベーション向上につなげている
	内容	施設では、日頃の業務遂行場面で職員が気づいた改善事項を文書化する「あれおやシート」の提出が定着しており、例えば、玄関先に敷いてあるマットに利用者がつまづいてケガをするのではないかとという気づきをシートで提出し、テープで固定する等の実効性を意識した改善が図られている。また、法人として「村山苑のいいねを探そうキャンペーン」を実施する等、職場のよい所を明らかにして全職員で共有するしくみが導入されている。いずれの取り組みも職員を称賛する機会が導入されており、各職員の業務に対するモチベーション向上にもつながっている。
3	タイトル	利用者の主体性を引き出す支援を進めることにより、自立に向けた意欲向上に努めている
	内容	施設では、食事や入浴、作業等、生活場面の支援において、利用者の意向や意見を聞く姿勢を重視して支援にあたっている。また、要望に対応するだけではなく、体制上で可能なことと、そうでないことの説明をする等、利用者の理解や納得性が高まる支援を心がけている。金銭管理においても、状況を判断して職員が支援方法を決めることよりも、本人の意向に沿った実践を踏まえて、失敗も一つの経験として捉え、管理方法を利用者と一緒に模索していくことを重視する等、利用者の意思ややる気を尊重しながら、意欲の向上につなげていく支援に努めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	虐待防止やサービスマナー向上に努める一方、職員がとるべき行動や利用者への対応方法を組織として明確に定めていくことが期待される
	内容	利用者への不適切な言動防止のため、独自の虐待防止チェックリストに基づく振り返りや、虐待防止ポスターを作成・掲示して注意を喚起する取り組みを行っている。一方、今回の自己評価結果では、利用者のさまざまな言動に対し、それをどう捉え、どう対応していくべきかを苦慮する職員の状況が伺え、施設でも課題と認識している。今後は、利用者、職員ともに尊重されるべき権利は何かについて職場で学びの機会を持つとともに、組織として考え方の整理を行い、職員がとるべき行動・対応を明確に定めて共有化を図っていくことが期待される。
2	タイトル	モニタリングの目的や意義について職員間での共通認識を図り、より効果的な計画作成に向けて実践につなげられたい
	内容	施設では、モニタリングの「改善担当職員」による進捗状況管理や、会議での確認等により、計画に沿った実施を進めている。しかしながら、職員がモニタリングの必要性を意識し、共通認識のもとで取り組むまでには至っていない状況がみられる。変化していく利用者のニーズを把握し、利用者の望む自立生活に近づけていく支援を展開するには確実なモニタリングが欠かせないと施設も認識していることから、今後、その目的や意義を職員間で再確認し、着実な実践につなげ、利用者の自立への支援をより強化していくことが望まれる。
3	タイトル	職員会議録の確認や研修報告書の提出等、施設運営の質の向上に必要な業務の遂行を徹底されたい
	内容	勤務年数の長い職員が多く、アットホームな雰囲気の中で利用者の自立支援を最優先した取り組みが進められている一方で、職員会議録の確認が滞っていたり、外部研修受講後の研修報告書が未提出のままになる場合がみられる。いずれも施設運営を職員全体で一体的に行うために重要な業務であり、かつ、各職員の専門性を高めていくために必須の事項であるので、各職員の意識向上を図るとともに、確実に業務が遂行されるしくみを導入する等、徹底されたい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者とかかわりを重視しながら長期的に支援を継続することにより、就労後の定着につながっている
	内容	就労移行支援における定着支援では、就労先の企業等への訪問による利用者の状況把握や、年に4回、土曜日に相談受付日を設定して相談に応じる等、就労後も利用者が相談しやすい環境を整えている。事業所が得た情報については、就労先や関係する支援機関との情報共有を図りながら、本人にとってより有効な支援が行われるよう連携に努めている。また、制度上定められた期間にこだわることなく、本人の求めがあれば相談に応じる等、利用者にとっての心の拠り所となり、関係性を維持していくことを重視した支援により、就労後の定着につなげている。
2	タイトル	自立した生活への支援に向けて、利用者一人ひとりの生活状況に合わせた社会資源の活用にも努めている
	内容	利用者の年齢層や障害特性、生活状況等が多様化する中、利用者への支援においても、個々のライフステージに合わせて生じる生活上の困難性や課題の検討等、生活全体を踏まえた視点が事業所に求められている。自立生活や将来設計、健康維持、家族支援等のさまざまな課題について、役所の手続きやグループホームの見学、介護保険のサービス利用等、個別に応じた社会資源を利用するための支援を行っている。利用者が望む自立した生活を実現していくために、適切な支援方針を明確にして必要とされる社会資源を検討し、活用につなげていくように努めている。
3	タイトル	地域ネットワークとの協働・連携を図り地域社会とのつながりを維持するとともに、事業所の専門性還元にも積極的に取り組んでいる
	内容	事業所では、これまでの作業実績により受注先の企業からの信頼を得て利用者に作業を安定的に提供することに加えて、基本方針に「関係機関との連携を図りながら、地域福祉の推進に貢献していく」ことを位置づけ、さまざまな場面で地域ネットワークとの協働・連携を図りながら、地域社会とのつながりを維持している。また、利用者対象に定期開催しているパソコン講座を地域住民にも開放することを企画・実施する等、事業所の専門性を可能な限り地域に還元するための取り組みを積極的に進め、地域との融合を図っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員の人材確保に向けて募集方法を工夫する等、取り組みのさらなる充実が望まれる
	内容	職員が退職したことに伴い、ハローワーク等を通して求人募集に努めているものの、予定通りに採用することが難しく、人材不足の影響が結果として各職員の業務負担増につながっている状況は改善が急務である。人材確保については、事業所だけの検討課題ではなく、法人全体としても、「人材確保委員会」を設置して職員の募集・採用活動の抜本的な見直しに着手している。例えば、事業所に関する情報を就職希望者に直接届くようにホームページ上での情報発信方法を工夫する等、より効果的な方法を確立・導入していくことが望まれる。
2	タイトル	新任職員の育成と定着のために、OJTのしくみの構築を図ることが期待される
	内容	職員の平均在職年数が12年を超えている一方で、ここ数年、新任職員や非常勤職員が早期に退職する傾向が続いていることが課題となっている。今後は、新規採用職員の育成方法について、着実な業務習得を目指すだけでなく、職場定着を促進する観点から見直し、計画的にOJTを進めていくことが期待される。また、育成担当者向けのマニュアル作成や研修を導入して、新任職員の着実な育成・定着に向けて取り組まれない。さらに、非常勤職員との情報共有方法についても見直しを行い、職員全体の一体感を高めていくことが期待される。
3	タイトル	多様化する利用者のニーズに応えた就労内容の提供のため、作業開拓や作業工程の工夫に取り組まれない
	内容	今後の事業展開において、高度な作業技術を担う後継者の育成や、多様化する利用者の特性に対応できる新たな作業種目の開拓が課題となっている。事業所では、作業工程の細分化や、効率化のための機械導入を検討する他、受注先の開拓に向けて情報収集に努め、慎重に導入を検討する等、新規作業種の確保への努力を続けている。また、他事業所への研修の成果等から、実践例についての学びも得られており、今後は、職員の意識改革や支援体制の見直しを踏まえ、利用者の有する能力を引き出せる作業工程を探る等、さらなる取り組みに期待したい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子ども一人ひとりを大切にした保育理念の実践を職員全体で目指しています
	内容	園の保育理念「子ども一人ひとりを大切に、生きる力を育む」が実践できるように年齢別の目標をたて、保育内容に反映させています。園児の個別の状況を把握するために、入園時の発育記録や面談記録、健康調査票などを保護者の協力のもと丁寧に聞き取って記録し職員間で共有しています。また、アレルギーや特別な配慮が必要な子ども、保護者の状況に応じた保育時間の設定なども個別に配慮しています。子どもたちがそれぞれの発達の状況に応じて自主性を発揮し、生きる力を育てていくことを目指しています。
2	タイトル	シミュレーションや内部研修等を通じて、子どもたちが安全な保育園生活を送れるように取り組んでいます
	内容	リスク委員会の提案により、熱性けいれん、アナフィラキシーショック、プール実施時の事故対応、転倒事故や睡眠時の呼吸停止など、実際に起こりうる事故やケガを想定し、保育時間中いつ起こるか予測がつかないことを前提としたシミュレーションを行っています。園長や主任、看護師、担任などがいない場合の役割分担や、職員連携、様々な時間帯の設定などで実際に行い問題点や課題などを話し合います。緊急時の対応が速やかに取れるように職員全体で取り組んでいます。
3	タイトル	詳細な内容を含んだクレドが策定されており、職員の業務遂行指針となっています
	内容	当園には、以前から詳細な内容を含んだクレド(経営理念)が策定されており、職員の業務遂行指針となっています。我が国における一般的なクレドは法人理念、基本方針、ビジョン等に留まるものが殆どですが、当園のそれは業務マニュアルといえる内容を含んでおり、常勤職員全てに冊子として製本印刷されたものが配布されています。園の沿革と概要、組織体制と職務内容、リスクマネジメント、保育の基礎などのカテゴリーに分れ、それぞれに詳細な説明がなされています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	マニュアル類の再整備を期待します
	内容	当園ではクレドと呼ぶ小冊子が職員に配布され、永年にわたり日常業務遂行の指針となってきました。国の保育指針の解説や保育マニュアルと呼べる内容も含まれていますが、発行されて以来一度も更新された形跡はありません。平成30年度から新しい保育指針が施行されますが、OJT等での教育のみでなく、誰もが同じレベルの業務を遂行できるよう、最低限の事項はマニュアルとして時代に合わせたものに改訂して行くことを期待します。
2	タイトル	時代や社会の変化に合わせた保育内容の検討が望まれます
	内容	「たくましく」をモットーに心と体の健康づくり・豊かな仲間づくりを目指した保育が行われ、園庭や園舎にも恵まれた環境にありますが、時代や経済・社会情勢、保護者の価値観や生活環境が大きく変化しており、保育園にはその変化への対応が求められています。トラブル対応や行事や保護者会のあり方、布おむつや入園時の持ち物などについては保護者のニーズを把握して見直しを進めるなど、保護者の負担感を軽減できるような取り組みが期待されます。
3	タイトル	地域ボランティア等を活用することで、子育て支援活動の一層の推進が期待されます
	内容	地域に根差した子育て支援の発信基地として、おたより発行や出前保育、半日保育体験、育児講座、世代間交流などに取り組んでいます。また、歯科の嘱託医と民生児童委員の協力で歯磨き指導なども行っています。近隣のマンション建設等により、今後は保育園への入園希望の増加や地域の子育て支援の要望が大きくなること予想されています。民生児童委員やファミリーサポートの方々の協力を得て、地域の情報を共有したり、子どもの見守りや読み聞かせ等、日常的なボランティア活動への一層の働きかけが期待されます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	一日の出来事や季節の行事など、保護者と保育園をつなぐ情報の伝え方と共有法が工夫され、分かりやすく表示されています
	内容	玄関の掲示板には、一日の園児の過ごし方を「今日の出来事」という手書きされたメッセージボードで掲示されています。また当日の担当職員状況が保護者と来園者に分かるように、「こんにちは」ボードで写真で示されています。各クラスの入り口掲示板には、保護者へのお知らせ・季節の行事・園児の楽しんだ姿や情景が一目で分かるように紹介されています。クラス担任から保護者への直接連絡のほかに工夫された掲示物等を駆使して、園児と保護者と職員の関係性を高める工夫がなされています。
2	タイトル	職員の質の向上に向けた取り組みが、職員研修の目的に沿って計画的になされています
	内容	職員の保育サービスの質の向上に対する取り組みとして、階層別・職階別に研修体系が策定されています。研修体系は「対人援助サービスを提供する組織として、職員一人ひとりが利用者ニーズにこたえられる保育ソーシャルワークの専門性を高め、地域の社会資源としての役割を果たしていく人財育成を行う」ことを目的としています。研修体系に基づき作成される「個人研修計画育成シート」は、保育サービスの質の向上への取り組み目標と実行計画であると同時に、職員と上司間の報告連絡相談ツールとして機能しています。
3	タイトル	おたより帳の変更や行事への保護者参加の仕方を工夫して、保護者の負担軽減に取り組んでいます
	内容	昨年度は親子遠足を親子交流会に変更して、親子で日常の保育を一緒に楽しむようにしました。また、保護者会と共催して行っていた「ふじみまつり」も保育園が主催して開催したことで、仕事で時間が取りづらい保護者にとって、保育園行事参加への負担感が軽減されるようになりました。全ての保護者にとって参加しやすいような取り組みがされており、また、幼児のおたより帳も必要な連絡を書けばよいように簡素化されていて、保護者の負担軽減に繋がっています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	文書での記録やマニュアルのファイル化にもうひと工夫が望まれます
	内容	入園希望者等の問い合わせや見学希望者の記録は、保育園見学者来園名簿に記録されていますが、それは、ノートに見学日時、氏名等が記載されているだけです。その見学者来園者とのような話をしたかとかなども記録しておく、後で一人ひとりの特性を思い出せ参考に出来ます。問い合わせがあった人の記録もしかりで、得られた情報を活かす工夫が求められます。また、マニュアル等のファイル管理でもマニュアル以外のものが混在していたりしますので、分かり易いファイル管理にも更なる工夫が望まれます。
2	タイトル	地域のボランティアが、日常的に保育園に関われるような働きかけが望まれます
	内容	日常の保育に加え、お泊り保育、運動会、お楽しみ発表会、ふじみ祭りなど毎月様々な行事が開催されています。近隣の小・中・高校生の育児体験・職場体験や実習生の受け入れ、子育て支援活動なども積極的に行われています。保護者の園行事への負担軽減も図られていますので、逆に職員の日々の業務負担が大きくなっていると思われます。子どもの見守りや読み聞かせ、折り紙など地域の人が日常的にボランティアとして関わってもらえるような働きかけを期待します。
3	タイトル	事故防止への一層の取り組みを期待します
	内容	日常の事故対策等はリスクマネジメント委員会、健康管理委員会、職員会議等で情報共有を図り、事故予防、発生時の対応、再発防止に取り組んでいます。今年度の事故報告書に記載されている事故は9月度までで計10件あり、原因については殆どが確認不足、注意不足、知識不足など、人為的なミスに分類されています。同じ子どもが繰り返し転倒して外傷を負った件も記録されており、再発防止策が適正であったかの検証も含め、事故防止への一層の取り組みを期待します

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子育て広場やプレママ体験など、地域の子育て支援が活発です
	内容	当園では市からの委託事業としての「子育て広場」を運営しています。園舎2階の一部屋を開放し、近隣の子育て支援事業の中核となっています。健康、家庭、発達、養育、生活習慣、しつけなどについての相談や健康体操遊びなど、様々な取組みも行われています。子育て広場には毎月100名ほどの利用者がおり、活況を呈しています。「プレママ体験」は人数制限があるため事前予約が必要ですが、妊娠中の人や6ヶ月未満の乳児を育てている人を対象に、園児と一緒に室内遊びや散歩、離乳食の紹介などが行われています。
2	タイトル	食育を大切にした取り組みを保育のさまざまな場面で行っています
	内容	子どもたちが落ち着いて食事できる場づくりをし、保育士も一緒に食事することで楽しい雰囲気づくりをしています。自分たちが食べている食事に興味を持たせるために、園庭菜園で芋を育てて芋ほり体験をしたり、調理室の声かけでどうもこしの皮むきや枝豆もぎなどの食育活動や調理保育にも積極的に取り組んでいます。またアレルギーで小麦粉が食べられない子どもの誕生日には、クラス全員が米粉のケーキを食べるなどの配慮も行われています。調理室の様子もガラス越しに子どもたちが見ることができ、食事の楽しみにつながっています。
3	タイトル	子どもの成長する姿を年齢別に保育課程(写真入りボード)として紹介しています
	内容	乳幼児の成長する段階を保護者が目で見て分かるように写真とコメント入りで紹介する「保育課程ボード」が、年齢別に保育室前に掲示されています。このボードは乳幼児の発達段階紹介と共に、保育内容を家庭に伝える「子ども・子育て支援」「家庭との共育」の役割や職員と保護者のコミュニケーション促進ツールとして活用されています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園の理念を再認識して、職員全体で促進できるような取り組みが期待されます
	内容	「子どもを第一に」を理念として、たくましくしなやかな心と体を持つ子どもを育てることを目標に掲げていますが、職員間の情報共有や、保育観が一部で統一されていない面も見受けられます。食事の際の言葉かけや手厚い支援が必要な子どもへの個別支援の方法など、正規職員とパート職員とは雇用形態は異なりますが、子どもたちにとっては同じ先生としての存在です。「子どもを第一に」という理念を再認識して、必要な改善を加えながら職員全体で共有、実行できるような取り組みが期待されます。
2	タイトル	保護者との信頼関係を再度深め、共育の一層の関係づくりが望まれます
	内容	第三者評価に際して実施した保護者へのアンケート調査では、多くの要望や意見が寄せられましたが、一部保護者からは厳しいコメントもありました。今年度の園長の交替、異年齢保育で明らかになりつつある諸問題、来年度の新保育指針の施行等、当園を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。全てのクラスに保育課程の分かりやすい掲示を行うなどして、この機会に保護者との信頼関係を再度深め、共育の一層の関係づくりが望まれます。
3	タイトル	職員の顔と名前が繋がりが、保護者との信頼関係を深められるような関係づくりが望まれます
	内容	今年度より連絡帳を複写式にして、一部を園に保存して子どもの情報を職員が共有したり、子どもの様子を保護者に分かりやすく掲示していますが、職員によってはまだ保護者との信頼関係を上手に築けていないようです。名札がないため、保護者が職員の名前を知らなかったり、送迎の際のコミュニケーションがうまく取れていない印象を受けます。送迎の際の職員の様子を保護者はよく見ているため、ちょっとしたやり取りが不安感に繋がってしまっているようです。保護者の気持ちに沿った対応を職員全体で共有して風通しの良い関係づくりが望まれます。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	小規模であるがゆえの、家庭的で丁寧な保育が実践されています
	内容	定員75名に対して59名の児童数で、小規模保育園であるがゆえの子ども達にとっては過ごしやすい環境が与えられています。民営化にともなう新規運営にあたる職員は、園長はじめ全て法人他保育園からの異動と新規採用者で占められており、全員が一致団結して保育に専念している姿が感じ取れます。建物の老朽化が進んでおり、決して恵まれた物理的環境ではありませんが、家庭的で丁寧な保育が実践されています。
2	タイトル	園全体で子どもたちの食育が豊かになるように取り組んでいます
	内容	栄養士、主任、各担任で構成された給食委員会が毎月1回開催され、課題を出し合っています。今年度は食事のマナーや食べる時の姿勢の取り方を職員が寸劇に行なう等、子どもたちが興味を持って考えられるようにしました。クラスごとに担任と調理師が工夫した献立を取り入れたり、調理保育も行っています。また、野菜の栽培から調理の下ごしらえのお手伝い(しめじの房分け、とうもろこしの皮むき等)が年齢に応じて行うことで、子どもたちが食全般に興味を持って楽しく取り組めるような工夫をしています。
3	タイトル	全ての子どもを職員全体で保育する姿勢を大切にしています
	内容	「保育を必要とするすべての子ども達一人ひとりを大切に、生きる力を育てていきます。」という理念のもと全員の子供を職員全体で保育する姿勢を大切に、子どもの情報を職員全員で共有し、同じ対応がとれるよう心掛けています。また、全クラス複数担任制を取り入れています。このことで引き継ぎがスムーズになり、また、朝、夕の保護者の送り迎えの際もパートの職員の対応だけにならないよう常勤職員も対応しており、口頭での申し送りも大切にして、保護者の気持ちに寄り添い、共に育ち合う体制が出来ています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	中間層の職員を育成することで、より一体感を持った保育園運営が期待されます
	内容	昨年度より民営化され、職員層も様々な背景をもつ中で特に子どもたちの安全と園の安定的運営に力を入れてきましたが、新人職員も多くバランスが悪いため、サブリーダー(中間層)の育成が課題となっています。職員個別の意向を自己評価シート・昇格推薦シート等を活用して把握するとともに、職員会議の活性化を図り、研修報告等を職員全員が共有できるように工夫するなどを通じて、サブリーダーとしての自覚を持つ人材を育成することが期待されます。
2	タイトル	行政との連携の強化を図りながら、地域住民とも協力しての子育てのネットワークの構築が望まれます
	内容	当園は歴史も古く、住宅街の中の保育園ではあるものの近隣住民とは良好な関係が築かれています。しかし、昨年度より運営主体が公立より民間に移管され、園長他職員体制も大幅に替わったため、地域の特性を理解し、行政を含めた関係諸機関との連携を進めていくことが急務となっています。今年度も地域に根ざした子育ての拠点となるよう、情報発信や観劇会、保育体験などに積極的に取り組んでいます。今後はさらに保健センターや子ども家庭支援センター、小学校、児童館といった行政の関連機関との連携を深められるような取り組みが期待されます。
3	タイトル	法人理念、園目標の浸透への一層の取組みを期待します
	内容	来期の定員増、期中の園舎移転が当園の新たなスタートとなります。法人及び当園の保育目標である「たくましく」の実現は緒に就いたばかりで、職員および子ども、保護者への浸透は今後の取組み次第ともいえます。常勤職員の約半数は新卒の若手であり、その活躍が大いに期待できます。クラス名の変更、職員の呼称、運動会の構成など、新園舎での保育に「たくましく」をいかに取り込んでいけるかが今後の大きな課題といえます。法人理念、園目標の浸透への一層の取組みを期待します。